

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優アーティスト・アニソン科	科目名	ステージ表現	
担当教員		RyoG（五十嵐涼志）		実務授業の有無	○
対象コース		アイドルデビューコース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数 32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ステップ、マイクパフォーマンス、ダンス 2. ステージでの動き、表現 3. ライブパフォーマンス			
学習目標 （到達目標）		ライブでのパフォーマンス向上、見せるステージングの上達			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		歌詞などプリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	ステージの名称			プリント配布	
3・4	音響・照明の基本的知識			プリント配布	
5・6	課題曲①の振り入れ（ソロ、落ち着いた楽曲）			音源はデータにて渡します	
7・8	課題曲①の振り入れ（ソロ、落ち着いた楽曲）			音源はデータにて渡します	
9・10	課題曲① ステージングチェック			動きやすい服装	
11・12	課題曲① ステージングチェック			動きやすい服装	
13・14	課題曲②の振り入れ（ユニット 少し激しい楽曲）			音源はデータにて渡します	
15・16	課題曲②の振り入れ（ユニット 少し激しい楽曲）			音源はデータにて渡します	
17・18	課題曲② ステージングチェック			動きやすい服装	
19・20	課題曲② ステージングチェック			動きやすい服装	
21・22	課題曲③の振り入れ（グループ 激しい楽曲）			音源はデータにて渡します	
23・24	課題曲③の振り入れ（グループ 激しい楽曲）			音源はデータにて渡します	
25・26	課題曲③ ステージングチェック			動きやすい服装	
27・28	課題曲③ ステージングチェック			動きやすい服装	
29・30	ライブパフォーマンス（本番）			無人ライブにてステージパフォーマンスを評価（試験）	
31・32	ライブパフォーマンス（本番）			無人ライブにてステージパフォーマンスを評価（試験）	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
ライブ50%、ステージングチェック30%、学習意欲20%				積極的に自主トレーニングを行うこと。	
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は必ず覚えて下さい。	
実務経験教員の経歴		新潟で活動するバンドのヴォーカリスト			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		発声トレーニング		
担当教員		緒形 奈美			実務授業の有無		○	
対象コース		アイドルデビューコース		対象学年		全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. マイク通りの良い発声・滑舌を身につける。						
学習目標 (到達目標)		1. ヴォーカリストとしての発声を身につける。2 歌唱に必要な滑舌を身につける。						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成テキスト						
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考		
1	腹式呼吸 声帯ストレッチ					実習		
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ					実習		
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ					実習		
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ					実習		
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ					実習		
6	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
7	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
8	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
9	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
10	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
11	テスト					滑舌課題確認テスト		
12	課題曲歌唱					高音ボイス曲		
13	課題曲歌唱					低音ボイス曲		
14	課題曲歌唱					ピッチの早い曲		
15	課題曲歌唱					高低の激しい曲		
16	テスト					課題曲		
評価方法・成績評価基準						履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						しっかりと声を出す意識を持たせる。 アナウンスの基本である声の出し方をヴォーカルに生かす。		
実務経験教員の経歴		ヴォーカリスト・ラジオパーソナリティ 指導経歴20年以上						

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	演技			
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース		対象学年		1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 舞台演技基礎の習得 2. 基礎的な演技メソッドの理解 3. 台詞表現と体表現への取り組み						
学習目標 (到達目標)		台本を読み、場においての動きや伝えたいことの意味、登場人物の役割を理解できること						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		練習用台本を必要に応じてコピーし配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1・2	舞台演劇基礎1 立ち姿勢				トレーニングの重要性和素立ち 発声の仕方			
3・4	舞台演劇基礎2 反応と表現				目線や仕草に対して無意識下での反応について 呼吸法に対する意識			
5・6	舞台演劇基礎3 台詞について				言葉の意味、伝えたい事を意識してみる 気持ちの持ち方・考え方			
7・8	舞台演劇基礎4 芝居の空間				場面、設定の理解と人物の行動理解			
9・10	舞台演劇基礎5 相手役を考える				自分に向けて話す相手の台詞から自分の役柄を見つける。			
11・12	舞台演劇基礎6 会話劇				二人以上のシーンを演じてみる。 お互いの表現について考える。			
13・14	舞台演劇基礎7 客席との距離				見せ方の工夫。声量について 距離感や想像力について			
15・16	舞台演劇基礎8 ミザンス				立ち位置の取り方について シーンでの見せ方			
17・18	演技発表1				一人5分程度の演技発表会			
19・20	演技実習1 姿勢や発声で必要な体について				基本的なトレーニングのおさらい			
21・22	演技実習2 反射と影響				台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応 してみる。			
23・24	演技実習3 伝え方の工夫				声や身体両方をしっかりと使ってみる。 擬音…声、台詞…体表現と日常の音を逆転させてみる。			
25・26	演技実習4 台詞のキャッチボール				二人一組で、古今東西ゲームをテニス形式（エア）で行っ てみる。			
27・28	演技実習5 台本を理解し、物語のテーマを考える				演じる世界を理解し、登場人物だからこそ見える世界を感じ とり、表現してみる。			
29・30	演技実習6 集団表現				舞台でのアンサンブルを意識し、適切な立ち位置と複数人 による台詞のタイミングを考えてみる。			
31・32	演技実習7 自然な演技				オーバーラップや無反応、集団と個人など、打ち合わせの 無い状態での集団表現			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。					様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々 な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の 世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解すること の大切さも学んでほしいと思います。			
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴16年						

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	演技トレーニング		
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無	○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース		対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 役者の仕事を理解し、演技することができる 2. 戯曲を読解し、演技につなぐことができる 3. 役へのアプローチを多角的にできる					
学習目標 (到達目標)		役者とは、演技とは何かを常に追求する頭を獲得し、戯曲やシナリオを役者の観点から読解することができるようになる。多角的な役へのアプローチを実践し、現場で必要とされる演技力を獲得する。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		その場に応じて教材・テキストを用意。					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1	役者とは・演技とは				役者とは何か、演技とは何かを考察する。演技者の為のイントロダクション		
2	セリフと間				セリフと間を実際に演じてみるエクササイズ		
3	演技で空気をつくる				演技で空気をつくるエクササイズ		
4	戯曲の読み方				役者としての戯曲の読み方・分析		
5	セリフ演技について				セリフ演技についての説明・実践		
6	戯曲への演技アプローチ 1				戯曲の解釈から演技に繋げる実習		
7	戯曲への演技アプローチ 2				戯曲の解釈から演技に繋げる実習		
8	戯曲への演技アプローチ 3				戯曲の解釈から演技に繋げる実習		
9	テスト発表						
10	ドラマのための即興演技 1				1人での即興トレーニング		
11	ドラマのための即興演技 2				2人組での即興トレーニング		
12	ドラマのための即興演技 3				グループでの即興トレーニング		
13	ドラマのための即興演技 4				戯曲を使った即興トレーニング		
14	ドラマのための即興演技 5				戯曲を使った即興トレーニング		
15	ドラマのための即興演技 6				戯曲を使った即興トレーニング		
16	ドラマのための即興演技 7				戯曲を使った即興トレーニング		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 役者としての自分と真摯に向き合う姿勢と、演劇に対する好奇心、演技力向上に対するモチベーションを保つこと。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴16年					

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		滑舌			
担当教員		緒形 奈美			実務授業の有無		○		
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。							
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1	日本語アクセント辞典 滑舌・アクセントについて説明					日本語発音アクセント辞典の使い方確認			
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ					実習			
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化					実習			
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化					実習			
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音					実習			
6	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音					実習			
7	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売					実習。外郎売のアクセント、読み方確認。			
8	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売					実習。外郎売練習。復習必須。			
9	テスト					実技テスト			
10	発声 外郎売					実習。外郎売チェック。			
11	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。			
12	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。			
13	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。			
14	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。			
15	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。			
16	発声 滑舌課題文練習					実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。			
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。			
実務経験教員の経歴		ヴォーカリスト・ラジオパーソナリティ 指導経歴20年以上							

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		滑舌					
担当教員		緒形 奈美			実務授業の有無		○				
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガーコース ヴォーカリストコース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。									
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	発声 滑舌練習					1年次の振り返り。復習練習。					
2	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					1年次の振り返り。尾高から平板読み練習。					
3	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					高感度の良い読み方、フラットな読み方の練習。					
4	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習					前回までの復習と再修正。					
5	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域					基礎練習。音域を広げる練習。					
6	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域					基礎練習。音域を広げる練習。					
7	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習					同じ文章で抑揚を変えて練習。ストレートに読む練習。					
8	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習					テスト課題練習。					
9	テスト					実技テスト					
10	基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を正しく読む練習。					
11	基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を正しく早く読む練習。					
12	基礎練習 滑舌練習					やや長めの滑舌文を表現を加えて読む練習。					
13	基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。敬語多めの文章。					
14	基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。無声化確認。					
15	基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。ブレス調節。					
16	基礎練習 滑舌長文練習					長めの滑舌文をクリアに読む練習。テスト課題練習。					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。				
実務経験教員の経歴		ヴォーカリスト・ラジオパーソナリティ 指導経歴20年以上									

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	ヴォーカル			
担当教員		石田 燿子			実務授業の有無		○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 声の通る道を意識しながら発声する 2. 1音1音に響きをつける 3. たくさんの曲の中から自分に合った曲を選ぶ						
学習目標 (到達目標)		自分のキーに合った選曲ができる。 歌いやすくなる。						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1	発声、呼吸				基本的な声楽のレッスン			
2	発声、呼吸				基本的な声楽のレッスン			
3	発声、呼吸、声出し				基本的な声楽のレッスン			
4	発声、課題曲の選曲・歌唱				歌唱による指導			
5	発声、課題曲の選曲・歌唱				歌唱による指導			
6	発声、課題曲の選曲・歌唱				歌唱による指導			
7	発声、自由曲の選曲・歌唱				歌唱による指導			
8	発声、自由曲の選曲・歌唱				歌唱による指導			
9	発声、自由曲の選曲・歌唱				歌唱による指導			
10	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方				歌唱による指導+ステージングの基礎知識			
11	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方、現場での立ち振る舞い				歌唱による指導+ステージングの基礎知識			
12	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方、現場での立ち振る舞い、ステージパフォーマンス				歌唱による指導+ステージングの基礎知識			
13	発声、自分に合った1曲を決定				ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導			
14	発声、自分に合った1曲を決定				ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導			
15	発声、自分に合った1曲を決定				ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導			
16	発声、自分に合った1曲を決定				ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
試験40%、授業による上達度30%、学習意欲30%					歌唱力向上以上にステージ表現を学んで下さい。自主練習は必修です。学んだ基本的発声は毎日行って下さい。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴		現役アニソンシンガー						

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	ヴォーカル				
担当教員		石田 燿子			実務授業の有無		○		
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガーコース ヴォーカリストコース		対象学年		2	開講時期	前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一	単位時間数		32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 1音1音に響きをつける 2. 自分の声のいいところ、悪いところを知る 3. ステージパフォーマンス							
学習目標 (到達目標)		歌い方、ニュアンスのつけ方の引き出しを増やし、幅を広げる。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布							
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考				
1・2	発声、呼吸、声出し				基本的な歌唱トレーニング				
3・4	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C				基本的な歌唱トレーニング＋歌唱指導				
5・6	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C				基本的な歌唱トレーニング＋歌唱指導				
7・8	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C				基本的な歌唱トレーニング＋歌唱指導				
9・10	発声、課題曲フル、高音の出し方				歌唱テクニック				
11・12	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム				歌唱テクニック				
13・14	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム				歌唱テクニック				
15・16	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム				歌唱テクニック				
17・18	課題曲仕上げ				前期試験として歌唱発表				
19・20	発声、自由曲の選曲・歌唱				歌唱指導				
21・22	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方				歌唱指導				
23・24	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス				歌唱指導＋ステージング				
25・26	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス				歌唱指導＋ステージング				
27・28	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス				歌唱指導＋ステージング				
29・30	発表ステージ リハーサル				発表本番に向けての準備				
31・32	ステージ発表会				本番				
評価方法・成績評価基準					履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					学内イベントにおいて観客の前に歌唱をします。歌唱上達もそうですが、プロとしての姿勢も学んで下さい。				
実務経験教員の経歴		現役アニソンシンガー							

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	ヴォーカル技法		
担当教員		鎌倉 亜子			実務授業の有無	○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 基本の発声法 2. リズム感、音程の安定 3. 洋楽の発音、発声法					
学習目標 (到達目標)		歌う筋肉の強化、音を聞く耳の強化、コーラス					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		歌詞などプリント配布					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1・2	基礎発声（腹式呼吸等）				基本の発声を身に付ける		
3・4	Mixボイス方法				Mixvo.の響きの確認		
5・6	鼻腔の共鳴				ハミングで鼻腔の響きの確認		
7・8	喉の柔軟性				声門の開閉運動		
9・10	高域の拡大				様々フレーズで発音		
11・12	ボイスチェンジ法				胸声区から中声区、頭声区へ変化		
13・14	リズムトレーニング				ハンドクラップで表現		
15・16	音程トレーニング				様々インターバル使用し発声		
17・18	洋楽の発声法				正しい英語発音を身に付ける		
19・20	コーラスの強化				ハモリの耳をきたえる		
21・22	課題曲歌唱Ⅰ				合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
23・24	課題曲歌唱Ⅰ				合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
25・26	課題曲歌唱Ⅱ				合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
27・28	課題曲歌唱Ⅱ				合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
29・30	課題曲歌唱Ⅲ				合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
31・32	課題曲歌唱Ⅲ				合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%					積極的に自主トレーニングを行うこと。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴		ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴16年					

②

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		ヴォーカル技法		
担当教員		鎌倉 亜子			実務授業の有無		○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース		対象学年		2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 基本発声の定着 2. 音域の拡大 3. リズム感、音程、ハモリの耳の強化						
学習目標 (到達目標)		抜力した上で声量上げる、洋楽ゴスペル曲（4声）の完成						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		歌詞などプリント配布						
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考		
1・2	基礎発声					リップ、タングロールで抜力させる		
3・4	Mixvo.の定着					やわらかい響き作り		
5・6	口・鼻・喉の共鳴					それぞれの違いの確認		
7・8	Middlevo.の強化					閉鎖筋の強化		
9・10	リズムトレーニング＆音程					音程発声にリズムを追加		
11・12	ゴスペル4声パート練習					パートごとの安定		
13・14	ゴスペル4声5曲完成					発表の場を設け、達成感を味わう		
15・16	課題曲練習					ゴスペル歌唱チェック		
17・18	課題曲練習					ゴスペル歌唱チェック		
19・20	課題曲歌唱Ⅰ					ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
21・22	課題曲歌唱Ⅰ					ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
23・24	課題曲歌唱Ⅱ					ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
25・26	課題曲歌唱Ⅱ					ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
27・28	課題曲歌唱Ⅲ					ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
29・30	課題曲歌唱Ⅲ					ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
31・32	試験用課題曲レッスン					歌唱チェック		
評価方法・成績評価基準						履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴		ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴16年						

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		ヴォーカル技法				
担当教員		鎌倉 亜子		実務授業の有無	○	
対象コース		アニソンシンガーコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 基本の発声法 2. リズム感、音程の安定 3. 洋楽の発音、発声法				
学習目標 (到達目標)		歌う筋肉の強化、音を聞く耳の強化、コーラス				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	基礎発声（腹式呼吸等）			基本の発声を身に付ける		
2	Mixボイス方法			Mixvo.の響きの確認		
3	鼻腔の共鳴			ハミングで鼻腔の響きの確認		
4	喉の柔軟性			声門の開閉運動		
5	高域の拡大			様々フレーズで発音		
6	ボイスチェンジ法			胸声区から中声区、頭声区へ変化		
7	リズムトレーニング			ハンドクラップで表現		
8	音程トレーニング			様々インターバル使用し発声		
9	洋楽の発声法			正しい英語発音を身に付ける		
10	コーラスの強化			ハモリの耳をきたえる		
11	課題曲歌唱Ⅰ			合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
12	課題曲歌唱Ⅰ			合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
13	課題曲歌唱Ⅱ			合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
14	課題曲歌唱Ⅱ			合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
15	課題曲歌唱Ⅲ			合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
16	課題曲歌唱Ⅲ			合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%				積極的に自主トレーニングを行うこと。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴		ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴16年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		ヴォーカル技法				
担当教員		鎌倉 亜子		実務授業の有無	○	
対象コース		アニソンシンガーコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 基本発声の定着 2. 音域の拡大 3. リズム感、音程、ハモリの耳の強化				
学習目標 (到達目標)		抜力した上で声量上げる、洋楽ゴスペル曲（4声）の完成				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	基礎発声			リップ、タングロールで抜力させる		
2	Mixvo.の定着			やわらかい響き作り		
3	口・鼻・喉の共鳴			それぞれの違いの確認		
4	Middlevo.の強化			閉鎖筋の強化		
5	リズムトレーニング＆音程			音程発声にリズムを追加		
6	ゴスペル4声パート練習			パートごとの安定		
7	ゴスペル4声5曲完成			発表の場を設け、達成感を味わう		
8	課題曲練習			ゴスペル歌唱チェック		
9	課題曲練習			ゴスペル歌唱チェック		
10	課題曲歌唱Ⅰ			ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
11	課題曲歌唱Ⅰ			ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
12	課題曲歌唱Ⅱ			ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
13	課題曲歌唱Ⅱ			ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
14	課題曲歌唱Ⅲ			ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
15	課題曲歌唱Ⅲ			ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
16	試験用課題曲レッスン			歌唱チェック		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%				積極的に自主トレーニングを行うこと。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴		ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴16年				

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		ダンス			
担当教員		RyoG（五十嵐涼志）			実務授業の有無		○		
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい姿勢、舞台上で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。							
学習目標 （到達目標）		1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		なし							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1	ストレッチ					基本的なストレッチ。体のパーツを動かし確認。			
2	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング					アイソレーション。首・胸・腰・膝・足首と、上から下へと行う。			
3	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ					アイソレーション。リズムをとりながらステップ。			
4	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ					ステップ、ボディコントロールできるための練習。			
5	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					ピッチが早すぎない課題曲から練習。基本的動きを確認。			
6	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					リズムキープ、体を大きく使えるような振りを加えた練習。			
7	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					グループ練習。動きの確認。			
8	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					グループ練習。動きの確認。			
9	テスト					グループ発表。			
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ					前期の復習			
11	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)の課題。新しい振り付け。			
12	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)振付の続き。			
13	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。			
14	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。			
15	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。			
16	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ					アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。			
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						進行状況に合わせながら振付も変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。			
実務経験教員の経歴		新潟で活動するバンドのヴォーカリスト							

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		ダンス					
担当教員		RyoG（五十嵐涼志）			実務授業の有無		○				
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい姿勢で舞台に映える動きを身につける。 2. アイソレーションが正しくできるようにする。 3. リズムキープに表現力がプラスされたダンスができるようにする。									
学習目標 （到達目標）		1. 舞台で使えるアイソレーションをマスターし、ボディコントロールできるようになる。2. 振り付けられた内容の中で、個々の表現を取り入れながら踊れるようにする。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		なし									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング					1年次の復習。					
2	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。					
3	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。					
4	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。					
5	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでの フォーメーション練習。					
6	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでの フォーメーション練習。					
7	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック					HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。					
8	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック					HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。					
9	課題発表					グループ発表。					
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング					前期の復習。					
11	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。					
12	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。					
13	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォー メーション練習。					
14	ストレッチ、アイソレーション、振り付け					HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォー メーション練習。					
15	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック					HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。					
16	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック					HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。							進行状況に合わせながら振付も変えていく。身体的リズム感を養 うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高 めていく予定。				
実務経験教員の経歴		新潟で活動するバンドのヴォーカリスト									

対象学科	声優アーティスト・アニソン科	科目名	アニソン		
担当教員	石田　　耀子		実務授業の有無	○	
対象コース	声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1．声量を上げる 2．やる気みなぎる表情ができる 3．発声基礎がしっかりできる				
学習目標 （到達目標）	覇気ある人間になる。 人に感じてもらえる歌唱。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	自己紹介、発声基礎、アンケート		ステージ・マイク使用法		
2	発声50音、自由曲1コーラスチェック		keyチェック		
3	自由曲　1コーラス		人に向かって歌う		
4	自由曲　2コーラス		指摘された所が直せる		
5	自由曲　フルコーラス　まとめ		指摘された所が直せる		
6	自由曲　発表		ステージ上で発表形式		
7	課題曲①　盛り上がるアニメソング		歌入れ		
8	課題曲②　盛り上がるアニメソング		1人ずつ歌唱		
9	課題曲③　盛り上がるアニメソング　発表		ステージ上で発表形式		
10	課題曲①　懐かしのアニメソング		歌入れ		
11	課題曲②　懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
12	課題曲③　懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
13	課題曲④　懐かしのアニメソング　発表		ステージ上で発表形式		
14	オーディション曲①		オーディション用選曲＆歌唱		
15	オーディション曲②		1人ずつ歌唱		
16	ミニライブ開催（発表会）		ステージ上で発表形式		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			まずはアニソンの歌い方、発声、スタイルなどを身に付けて下さい。		
実務経験教員の経歴	日本を代表するアニソンシンガー（芸能活動30年）				

対象学科	声優アーティスト・アニソン科	科目名	アニソン		
担当教員	石田　　耀子		実務授業の有無	○	
対象コース	声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1．基礎発声を正確に 2．自由曲（個性を伸ばす） 3．課題曲（求められた事ができる）				
学習目標 （到達目標）	自分の声を知り、個性として自信を持って歌える事。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	自己紹介、発声基礎、アンケート		ステージ・マイク使用法		
2	発声50音、自由曲1コーラスチェック		滑舌、表現力		
3	自由曲　2コーラス		指摘された所が直せる		
4	自由曲　2コーラス　フルコーラス		指摘された所が直せる		
5	自由曲　フルコーラス　まとめ		曲構成を考える		
6	自由曲　発表		ステージ上で発表形式		
7	課題曲①　懐かしのアニメソング		歌入れ		
8	課題曲②　懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
9	課題曲③　懐かしのアニメソング　発表		ステージ上で発表形式		
10	セリフのある曲①		歌入れ		
11	セリフのある曲②		1人ずつ歌唱		
12	セリフのある曲③		1人ずつ歌唱		
13	セリフのある曲④		ステージ上で発表形式		
14	オーディション曲①		オーディション用選曲＆歌唱		
15	オーディション曲②		1人ずつ歌唱		
16	ミニライブ開催（発表会）		ステージ上で発表形式		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			自分なりに努力、成長が見られるか。 勇気と希望を与えられるアニソンが歌えるか。		
実務経験教員の経歴	日本を代表するアニソンシンガー（芸能活動30年）				

科目名	アニソン				
担当教員	石田 耀子		実務授業の有無	○	
対象コース	アニソンシンガーコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 声量を上げる 2. やる気みなぎる表情ができる 3. 発声基礎がしっかりできる				
学習目標 (到達目標)	覇気ある人間になる。 人に感じてもらえる歌唱。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	自己紹介、発声基礎、アンケート		ステージ・マイク使用法		
3・4	発声50音、自由曲1コーラスチェック		keyチェック		
5・6	自由曲 1コーラス		人に向かって歌う		
7・8	自由曲 2コーラス		指摘された所が直せる		
9・10	自由曲 フルコーラス まとめ		指摘された所が直せる		
11・12	自由曲 発表		ステージ上で発表形式		
13・14	課題曲① 盛り上がるアニメソング		歌入れ		
15・16	課題曲② 盛り上がるアニメソング		1人ずつ歌唱		
17・18	課題曲③ 盛り上がるアニメソング 発表		ステージ上で発表形式		
19・20	課題曲① 懐かしのアニメソング		歌入れ		
21・22	課題曲② 懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
23・24	課題曲③ 懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
25・26	課題曲④ 懐かしのアニメソング 発表		ステージ上で発表形式		
27・28	オーディション曲①		オーディション用選曲＆歌唱		
29・30	オーディション曲②		1人ずつ歌唱		
31・32	ミニライブ開催（発表会）		ステージ上で発表形式		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			まずはアニソンの歌い方、発声、スタイルなどを身に付けて下さい。		
実務経験教員の経歴	日本を代表するアニソンシンガー（芸能活動30年）				

科目名	アニソン				
担当教員	石田 耀子		実務授業の有無	○	
対象コース	アニソンシンガーコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 基礎発声を正確に 2. 自由曲（個性を伸ばす） 3. 課題曲（求められた事ができる）				
学習目標 （到達目標）	自分の声を知り、個性として自信を持って歌える事。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	自己紹介、発声基礎、アンケート		ステージ・マイク使用法		
3・4	発声50音、自由曲1コーラスチェック		滑舌、表現力		
5・6	自由曲 2コーラス		指摘された所が直せる		
7・8	自由曲 2コーラス フルコーラス		指摘された所が直せる		
9・10	自由曲 フルコーラス まとめ		曲構成を考える		
11・12	自由曲 発表		ステージ上で発表形式		
13・14	課題曲① 懐かしのアニメソング		歌入れ		
15・16	課題曲② 懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
17・18	課題曲③ 懐かしのアニメソング 発表		ステージ上で発表形式		
19・20	セリフのある曲①		歌入れ		
21・22	セリフのある曲②		1人ずつ歌唱		
23・24	セリフのある曲③		1人ずつ歌唱		
25・26	セリフのある曲④		ステージ上で発表形式		
27・28	オーディション曲①		オーディション用選曲＆歌唱		
29・30	オーディション曲②		1人ずつ歌唱		
31・32	ミニライブ開催（発表会）		ステージ上で発表形式		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			自分なりに努力、成長が見られるか。 勇気と希望を与えられるアニソンが歌えるか。		
実務経験教員の経歴	日本を代表するアニソンシンガー（芸能活動30年）				

対象学科		声優アーティスト・アニソン科	科目名	ファシリテーション		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	×	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。				
学習目標 （到達目標）		社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		必要資料を授業毎に配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションとは？			P2 コミュニケーションの必要性を考える		
2	聞く力			P6～P9 目的に即して聞く		
3	聞く力			P10～P14 傾聴・質問する		
4	話す力			P15～P17 目的を意識する		
5	話す力			P18～P22 話を組み立てる		
6	話す力			P23～P29 言葉を選び抜く		
7	話す力			P30～P35 表現・伝達する		
8	実践基礎 1			P36～P39 来客応対		
9	実践基礎 2			P40～P43 電話応対		
10	実践基礎 3			P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶		
11	実践基礎 4			P49～P54 情報共有の重要性		
12	実践基礎 5			P55～P59 チーム・コミュニケーション		
13	実践応用 1			P60～P65 接客・営業		
14	実践応用 2			P66～P71 クレーム対応		
15	実践応用 3			P72～P77 会議・取材・ヒヤリング		
16	実践応用 4			P78～P83 面接		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話しも交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。		
実務経験教員の経歴		コミュニケーション指導歴16年以上				

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		POPS			
担当教員		緒形 奈美			実務授業の有無		○		
対象コース		アイドルデビューコース		対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1．POPSに特化した歌唱授業 2．様々な歌を練習して持ち歌を増やす 3．人前でしっかり歌えるだけの技術を身に付ける							
学習目標 (到達目標)		POPS歌唱力の完成度を高める							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		歌詞など必要なものはその都度、配布します。							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1～3	POPSの種類と歌い方の注意					プリント配布			
4～6	POPSの歴史					年代に合わせたPOPS曲を学ぶ			
7～9	課題曲60年代POPS 歌唱指導					プリント配布			
10～12	チェックテスト					課題曲60年代POPS 歌唱指導			
13～15	課題曲70年代POPS 歌唱指導					プリント配布			
16～18	チェックテスト					課題曲70年代POPS 歌唱指導			
19～21	課題曲80年代POPS 歌唱指導					プリント配布			
22～24	チェックテスト					課題曲80年代POPS 歌唱指導			
25～27	課題曲90年代POPS 歌唱指導					プリント配布			
28～30	チェックテスト					課題曲90年代POPS 歌唱指導			
31～33	課題曲2000年代POPS 歌唱指導					プリント配布			
34～36	チェックテスト					課題曲2000年代POPS 歌唱指導			
37～39	課題曲2010年代POPS 歌唱指導					プリント配布			
40～42	チェックテスト					課題曲2010年代POPS 歌唱指導			
43～45	POPSライブに向けて本番					自身が歌いたいPOPS曲を2曲用意			
46～48	チェックテスト					POPSライブを参考に最終チェックテストの実施			
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
チェックテスト60%、積極性40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						課題曲歌詞はチェックテストまでに覚えて下さい。 歌詞を見て歌う場合は減点とします。			
実務経験教員の経歴		ヴォーカリスト・ヴォーカル指導者							

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		アニソン基礎			
担当教員		石田 耀子			実務授業の有無		○		
対象コース		アニソンシンガー・		対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. アニソンの歴史 2. 年代別アニソン歌唱 3. 数多くのアニソン持ち歌を増やす							
学習目標 (到達目標)		アニソンに関する知識、歌唱に関するテクニックを身に付ける							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		歌詞など必要なものはその都度、配布します。							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1～3	60年代のアニソン視聴・講義・代表曲歌唱					プリント配布			
4～6									
7～9	70年代のアニソン視聴・講義・代表曲歌唱					プリント配布			
10～12									
13～15	80年代のアニソン視聴・講義・代表曲歌唱					プリント配布			
16～18									
19～21	90年代のアニソン視聴・講義・代表曲歌唱					プリント配布			
22～24									
25～27	2000年代のアニソン視聴・講義・代表曲歌唱					プリント配布			
28～30									
31～33	2010年代のアニソン視聴・講義・代表曲歌唱					プリント配布			
34～36									
37～39	2000年前のアニソン歌唱ライブを実施					テスト①			
40～42									
43～45	2000年後のアニソン歌唱ライブを実施					テスト②			
46～48									
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
テスト①40％ テスト②40%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						講義ではモニターを使用します。			
実務経験教員の経歴		ヴォーカリスト・ヴォーカル指導者							

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		アフレコ			
担当教員		鈴木 則子			実務授業の有無		○		
対象コース		声優アーティストコース		対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. プロ声優による実技指導。 2. アフレコ、ドラマCDの演じ方などを学ぶ。 3. 声優としての意識を修得する。							
学習目標 (到達目標)		1. 声優としての基礎を身につける。 2. キャラクターや状況に合わせた演技ができる。 3. マイクワークを身につける。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成資料							
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考				
1～3	アニメアフレコC				キャラクターの動きや表情を確認して演じる。				
4～6	アニメアフレコC				マイクワークを加えての練習。				
7～9	アニメアフレコC				マイクワークを加えての練習。				
10～12	アニメアフレコC				最終練習。(テスト)				
13～15	アフレコの現場 プロダクションについて				講義。今後の各自の進路研究につなげる。				
16～18	ボイスドラマA				キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。				
19～21	ボイスドラマA				マイクワークを加えての練習。				
22～24	ボイスドラマA				リハーサル。				
25～27	ボイスドラマA				最終練習。(テスト)				
28～30	外画吹替え実習				映像と台本のチェック。				
31～33	外画吹替え実習				吹替え練習				
34～36	外画吹替え実習				吹替え練習				
37～39	外画吹替え実習				最終練習。(テスト)				
40～42	ボイスドラマB				キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。				
43～45	ボイスドラマB				マイクワークを加えての練習。				
46～48	ボイスドラマB				最終練習。(テスト)				
評価方法・成績評価基準					履修上の注意				
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					声優としての実力を磨く。 授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。				
実務経験教員の経歴		演劇・表現経歴10年以上 指導者経歴20年							

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	PC&Webリテラシー			
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 情報リテラシーに関する知識 2. パソコンに関する基礎知識 3. アプリケーションに関する基礎知識						
学習目標 (到達目標)		P C, S N Sに関する基礎知識 ビジネスソフトを中心に基礎使用方法						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1・2	情報リテラシー				情報を正しく選択し解釈する			
3・4	情報リテラシー				ネット使用の注意点			
5・6	Twitterについて				セルフプロモーション活用法			
7・8	Instagram				セルフプロモーション活用法			
9・10	Youtube				セルフプロモーション活用法			
11・12	ソフト（Word）				文章作成			
13・14	ソフト（Word）				文章作成			
15・16	ソフト（Excel）				表計算			
17・18	ソフト（Excel）				表計算			
19・20	ソフト（PowerPoint）				プレゼンテーション			
21・22	ソフト（PowerPoint）				プレゼンテーション			
23・24	フリーソフト紹介および使用方法①				画像・動画			
25・26	フリーソフト紹介および使用方法②				画像・動画			
27・28	フリーソフト紹介および使用方法③				画像・動画			
29・30	フリーソフト紹介および使用方法④				音楽・サウンド編集			
31・32	フリーソフト紹介および使用方法⑤				音楽・サウンド編集			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！			
実務経験教員の経歴								

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	PC&Webリテラシー			
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		—	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		ソフト・アプリケーションを使用した様々な作成実習 1. 画像・動画関係 2. 音楽・音響関係 3. その他（CAD、イラスト・アニメーションなど）						
学習目標 （到達目標）		様々なソフト・アプリケーションを使用したコンテンツ作成が可能な人材育成						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1～3	画像・イラストソフトについて①				illustrator・photoshop			
4～6	画像・イラストソフトについて②				illustrator・photoshop			
7～9	画像・イラストソフトについて③				illustrator・photoshop			
10～12	画像・イラストソフトについて④				illustrator・photoshop			
13～15	動画ソフトについて①				Final Cut Pro			
16～18	動画ソフトについて②				Final Cut Pro			
19～21	動画ソフトについて③				Final Cut Pro			
22～24	動画ソフトについて④				Final Cut Pro			
25～27	レコーディングソフトについて①				Protools			
28～30	レコーディングソフトについて②				Protools			
31～33	レコーディングソフトについて③				Protools			
34～36	レコーディングソフトについて④				Protools			
37～39	アニメーション制作				フリーソフト活用			
40～42	アニメーション制作				フリーソフト活用			
43～45	アニメーション制作				フリーソフト活用			
46～48	アニメーション制作				フリーソフト活用			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！			
実務経験教員の経歴								

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	音楽ビジネス			
担当教員		小野 憲人			実務授業の有無		○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音楽業界のしくみやビジネスの考え方を学習する。 2. 音楽業界で働くための基礎知識を育成する。 3. 音楽ビジネスの基本から将来展望まで幅広い知識を修得する。						
学習目標 (到達目標)		1.音楽業界に基本的仕組みや役割を理解している。2.音楽コンテンツを制作し、市場へ出す仕組みを理解している。3.音楽をビジネスとしてとらえることが出来る。						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布など						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1	音楽業界の基本的しくみⅠ				プロダクション・レコード会社・音楽出版社の役割			
2	音楽業界の基本的しくみⅡ				ライブ・コンサートについて			
3	音楽業界の基本的しくみⅢ				テレビ・ラジオ・インターネットを使っでのプロモーション展開			
4	CD・DVDについて				レコード会社による音楽コンテンツの制作・宣伝・流通について			
5	アーティスト育成について				プロダクションによるアーティスト宣伝戦略			
6	アーティストグッズについて				コンサート物販におけるビジネス戦略			
7	楽曲（作詞）				60年代からの作詞推移と楽曲別作詞の特性			
8	楽曲（作曲）				90年代より変化した作曲法			
9	楽曲（編曲）				楽曲別アレンジポイントや実力派シンガーからアイドルまでの編曲特徴など。			
10	ファンクラブの役割				顧客管理およびマーケティングによるビジネス展開			
11	アーティストプロデュース 1				マーケティング・メディアへのアプローチ・コンテンツの差別化			
12	アーティストプロデュース 2				何が売れるかを考える（コンテンツ・パフォーマンス）			
13	アーティストに求められていること				センスを視覚化できる・流行を生み出す先見力・ブランドイメージ			
14	育成する力				誰を・誰に・何を・どこで・いつを明確化し、売る要素のあるキャラクター作りを行う。			
15	宣伝プロモート 1				知名度を上げることでブランド力がつく。知るきっかけを作る。			
16	宣伝プロモート 2（存在から特別へ）				競争優位性・ターゲットカスタマーにフォーカスする・出来るだけ5年単位で結果を求める。			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
定期試験40%、レポート40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					音楽に関する雑学的要素も多々含まれるが、あくまでもビジネスの授業として受け取って欲しい。音楽は娯楽だが、プロとして必要なことは、それをいかにビジネスに置き換えることが出来るかが能力です。			
実務経験教員の経歴		新潟ご当地アイドルプロモーション経歴5年以上						

対象学科		声優アーティスト・アニソン科	科目名	音楽ビジネス		
担当教員		小野 憲人		実務授業の有無	○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ケーススタディーの中心に音楽業界のビジネス戦略について講義を行う。 2. 音楽業界が実施したビジネス形態の基本を学ぶ。 3. 過去を学び未来展望を身に付ける。				
学習目標 (到達目標)		音楽ビジネスの基本的戦略を理解し、新しいビジネスセンスを身に付ける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		こんなバンドがプロになれる！（音楽之友社・高垣健）、ヒットのツボ（日経BP出版センター・麻生香太郎）				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	オリジナリティを作る			音楽の差別化・本音を作詞で表現する・ファン作り P14～P24		
2	デビューに向けて			プロデューサーが求める音楽・デビューのポイント・実例 で見るデビュープロセス P27～P45		
3	デビュー後の現実			宣伝は雑誌から・プロとアマチュアは別物・クオリティー よりスピード P50～P73		
4	スタッフとの関係性			CD制作・マネジメントプロダクション・レコード会社・販 促スタッフ P77～P111		
5	契約について			契約期間・原盤権・アーティスト印税・援助金・契約金・ 著作権印税 P118～P132		
6	オーディション			オーディション審査・各社のケーススタディ（ヤマハ音楽 振興会・ビクター・ソニーなど）P142～P155		
7	プロになるための実践的アドバイス			売り込みの基本・デモテープに聞いてもらうには P171～P184		
8	プロデューサーが教える練習ポイント			レパートリーを増やす・リズム練習・ヴォーカルレッス ン法 P190～P195		
9	ドリカム400万枚への道			ブレイクポイント・ロンドンテストの起用・FM多局 化・キーワードは幸せ P9～P33		
10	プロデューサーの戦略（長戸大幸）			ビーイングの戦略 P36～P49		
11	プロデューサーの戦略（須藤晃）			ソニーレコードの戦略 P50～P60		
12	プロデューサーの戦略（田村充義）			ビクターの戦略 P61～69		
13	プロデューサーの戦略（木崎賢治）			WEAミュージックの戦略 P70～P73		
14	プロデューサーの戦略（小坂洋二）			EPICソニーの戦略 P74～P84		
15	プロデューサーの戦略（渡辺有三）			ポニーキャニオンの戦略 P85～P89		
16	レコード会社の研究			EPICソニーについて P91～P122		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート40%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。				配布資料が多くなります。各自でストック出来るファルダーなど を用意して下さい。また、必要に応じてCD等の貸出を行います。 授業終了後に申し出て下さい。		
実務経験教員の経歴		新潟ご当地アイドルプロモーション経歴5年以上				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	声優アーティスト・アニソン科	科目名	社会人常識マナー検定		
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象コース	声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4. ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集 3 級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織 1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織 2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識 1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識 2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。来客対応。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道府県名・県庁所在地・各県の特色など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		専門学校教員として20年間、学生の育成に従事。			

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	ブランディング&SNSマーケティング			
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成						
学習目標 (到達目標)		自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		iPad・スマートフォンを使用 プリント配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1	ブランド展開とは				選ばれる戦略			
2	市場リサーチとマーケティング				消費者の中の顧客			
3	宣伝とは				5 W1H・AIDMAの法則など			
4	フォロワー数を増やすメリット・デメリット				知名度に伴う誹謗中傷について			
5	Twitter・Instagram①				人気のあるSNSとは			
6	Twitter・Instagram②				フォロワー数をどう増やすか			
7	Twitter・Instagram③				どんな投稿をするべきか			
8	Twitter・Instagram実践				自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。			
9	Twitter・Instagram実践							
10	Twitter・Instagram実践							
11	Twitter・Instagram実践							
12	Twitter・Instagram実践							
13	Twitter・Instagram実践							
14	Twitter・Instagram実践							
15	Twitter・Instagram実践							
16	Twitter・Instagram実践							
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					SNSを駆使してセルフプロモーションを展開して下さい。			
実務経験教員の経歴								

②		国際映像メディア専門学校 シラバス				
対象学科		声優アーティスト・アニソン科	科目名	ブランディング＆SNSマーケティング		
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成				
学習目標 (到達目標)		自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		iPad・スマートフォンを使用 プリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	Twitter・Instagram・YouTube実践			自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。		
2	Twitter・Instagram・YouTube実践					
3	Twitter・Instagram・YouTube実践					
4	Twitter・Instagram・YouTube実践					
5	Twitter・Instagram・YouTube実践					
6	Twitter・Instagram・YouTube実践					
7	Twitter・Instagram・YouTube実践					
8	Twitter・Instagram・YouTube実践					
9	Twitter・Instagram・YouTube実践					
10	Twitter・Instagram・YouTube実践					
11	Twitter・Instagram・YouTube実践					
12	Twitter・Instagram・YouTube実践					
13	Twitter・Instagram・YouTube実践					
14	Twitter・Instagram・YouTube実践					
15	Twitter・Instagram・YouTube実践					
16	Twitter・Instagram・YouTube実践					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				SNSを駆使してファンを獲得し、マネタイズ戦略へと繋げて下さい。		
実務経験教員の経歴						

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	演習			
担当教員		朝倉 隆司			実務授業の有無		○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1	開講時期	前期
必修・選択		必修		単位数		－	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学科コースで、それぞれの役割（スタッフと演者）を決めて演習を行う 2. 本番さながらの事柄を様々な経験を模擬体験することを目的とする 3. 協調性・積極的・主体性が無ければ成立しない授業である						
学習目標 （到達目標）		様々な経験をすることで、本番に対応出来る人材育成を目標とする						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		台本など必要物はその都度、配布する						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1～3	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う			
4～6	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う			
7～9	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う			
10～12	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う			
13～15	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う			
16～18	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う			
19～21	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う			
22～24	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う			
25～27	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う			
28～30	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う			
31～33	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う			
34～36	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う			
37～39	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う			
40～42	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う			
43～45	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う			
46～48	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
主体性・積極性・協調性60%、舞台ステージ・映像作品完成度40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以 上)・D評価を不可とする。					舞台・ステージ・映像作品など、あらゆることに積極的かつ協調 性を持って履修下さい。			
実務経験教員の経歴		音楽業界・マーケティング部門 経歴7年 指導経歴10年						

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	演習				
担当教員		朝倉 隆司			実務授業の有無		○		
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2	開講時期	前期	
必修・選択		必修		単位数		－	単位時間数		48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学科コースで、それぞれの役割（スタッフと演者）を決めて演習を行う 2. 本番さながらの事柄を様々な経験を模擬体験することを目的とする 3. 協調性・積極的・主体性が無ければ成立しない授業である							
学習目標 （到達目標）		様々な経験をすることで、本番に対応出来る人材育成を目標とする							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		台本など必要物はその都度、配布する							
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考				
1～3	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う				
4～6	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う				
7～9	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う				
10～12	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う				
13～15	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う				
16～18	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う				
19～21	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う				
22～24	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う				
25～27	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う				
28～30	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う				
31～33	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う				
34～36	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う				
37～39	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う				
40～42	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う				
43～45	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇				それぞれの学科コースに分かれて準備を行う				
46～48	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）				各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う				
評価方法・成績評価基準					履修上の注意				
主体性・積極性・協調性60%、舞台ステージ完成度40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以 上)・D評価を不可とする。					舞台・ステージ・映像作品など、あらゆることに積極的かつ協調 性を持って履修下さい。				
実務経験教員の経歴		音楽業界・マーケティング部門 経歴7年 指導経歴10年							

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	卒業進級制作						
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		○				
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1		開講時期	後期		
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		260時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1．1年間の集大成になるライブを実施 2．制作プロセスの経験と発表 3．各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施									
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1～13	企画立案					テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成					
14～27	企画書作成					立案での決定事項をもとに企画書作成					
28～40	ステージ構成および内容					演出的なアイデアの出し合い					
41～53	セットリスト作成					楽曲リスト作成（内容への落とし込み）					
54～66	セットリスト作成（直し）					楽曲リスト作成（内容への落とし込み）					
67～79	歌唱練習					衣装作り・ステージング					
80～92	歌唱練習										
93～105	歌唱練習										
106～118	歌唱練習										
119～131	歌唱練習										
132～144	歌唱練習										
145～157	歌唱練習										
158～170	歌唱練習										
171～183	ステージごとの稽古					演出および入りハケの練習					
184～196	ステージごとの稽古					演出および入りハケの練習					
197～209	通し稽古					衣装あり・音響・照明あり					
210～222	通し稽古					衣装あり・音響・照明あり					
223～236	通し稽古					衣装あり・音響・照明あり					
237～249	ゲネラルプローベ										
250～260	本番					評価					
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						進級評価の対象となります。					
実務経験教員の経歴		音楽業界・マーケティング部門 経歴7年 指導経歴10年									

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		卒業進級制作					
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		○				
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2		開講時期		後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		260時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1．2年間の集大成となるライブを実施 2．制作プロセスの経験と発表 3．各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施									
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1～13	企画立案					テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成					
14～27	企画書作成					立案での決定事項をもとに企画書作成					
28～40	ステージ構成および内容					演出的なアイデアの出し合い					
41～53	セットリスト作成					楽曲リスト作成（内容への落とし込み）					
54～66	セットリスト作成（直し）					楽曲リスト作成（内容への落とし込み）					
67～79	歌唱練習					衣装作り・ステージング					
80～92	歌唱練習										
93～105	歌唱練習										
106～118	歌唱練習										
119～131	歌唱練習										
132～144	歌唱練習										
145～157	歌唱練習										
158～170	歌唱練習					↓					
171～183	ステージごとの稽古					演出および入りハケの練習					
184～196	ステージごとの稽古					演出および入りハケの練習					
197～209	通し稽古					衣装あり・音響・照明あり					
210～222	通し稽古					衣装あり・音響・照明あり					
223～236	通し稽古					衣装あり・音響・照明あり					
237～249	ゲネラルプローベ										
250～260	本番					評価					
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						卒業評価の対象となります。					
実務経験教員の経歴		音楽業界・マーケティング部門 経歴7年 指導経歴10年									

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	楽曲プロデュース						
担当教員		富田 一輝			実務授業の有無		○				
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2		開講時期	前期・後期		
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 作詞を中心とし、プロデュースについて学ぶ。 2. GarageBandを使用し、自分の声を録音することで客観的に評価する。 3. 自分自身で制作することにより、言葉一つ一つの重みを理解する。									
学習目標 (到達目標)		1.自分の声を録音することができる。 2.テーマに沿った歌詞を書く事が出来る。 3.作品、アーティストのイメージの構築方法が理解出来る。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		適宜プリントにて対応。									
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考						
1・2	オリエンテーション				自己紹介、授業目標の説明、データ共有方法の説明。						
3・4	CMソングについて、ガレージバンドの操作について。				実習（青森リンゴテーマソング制作）。プリント配布。						
5・6	メジャー調ロック				実習（夢についての歌詞制作）。プリント配布。						
7・8	マイナー調ロック				実習（テーマ約束）。プリント配布。						
9・10	王道アニソン				実習（テーマワンピース）。プリント配布。						
11・12	王道バラード				実習（テーマハナミズキ）。プリント配布。						
13・14	コライト（共作）				実習（グループを組んで制作）。プリント配布。						
15・16	前期まとめ				前期の振り返り						
17・18	J POP				実習（テーマ夏の終わり）。プリント配布。						
19・20	K POP				実習（テーマ訳詞）。プリント配布。						
21・22	コミックソング				実習（テーマツイッター）。プリント配布。						
23・24	プロデュース（ミュージックレイン）				実習（テーマTry sail）。プリント配布。						
25・26	プロデュース（ミュージックレイン）				実習（テーマ雨宮天）。プリント配布。						
27・28	プロデュース（ミュージックレイン）				実習（テーマ麻倉もも）。プリント配布。						
29・30	プロデュース（ミュージックレイン）				実習（テーマ夏川椎菜）。プリント配布。						
31・32	メジャー調ロック				実習（同じテーマ夢についての歌詞制作）。プリント配布。						
評価方法・成績評価基準					履修上の注意						
前期・後期において振り返りレポートの提出60%、学習意欲40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					オーディションへ提出する仮歌を収録することがあります。課題レポートの提出があります。						
実務経験教員の経歴		作曲家：2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数									

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		アニソンライブ実習					
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		○				
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ライブハウスでの歌唱（ステージング能力）向上を目指す。 2. ライブハウスでの音楽活動のノウハウを学ぶ。 3. 歌唱・ステージングだけでなくライブハウスでの運営全般を学ぶ。									
学習目標 （到達目標）		年度末に自ら企画・制作・広報・運営・出演まで、自ら全てを実施出来ること。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		配布資料および歌詞ブック									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	音響機材について					マイク、マイクスタンド、PAセットの使い方					
2	ライブハウスについて					柳都オレンジスタジアムにおいて ライブハウス運営のノウハウを現場で学ぶ					
3	演出と選曲					30分の枠内で構成パターンについて学習（何を歌い、どんなトークで繋ぎ、どうめるか）。					
4	起承転結					課題曲3曲と2回のフリートークでライブ構成を作ってみる。					
5	ミニライブ I					自身で選曲した曲2曲とトーク1回の構成でミニライブを実施する。					
6	広報と動員について（紙媒体・電波媒体・ネット媒体）					自身が開催するライブの宣伝方法を講義する。					
7	衣装について					ステージ栄えする、照明に合う衣装について。					
8	模擬リハーサル					本番同様にリハーサルの指導を行う。					
9	前期終了音楽ライブ実施					実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。					
10	音楽ライブの企画立案					後期終了音楽ライブの企画立案計画の方法を講義する。					
11	歌唱指導					後期終了音楽ライブで歌唱する楽曲の歌唱指導。					
12	歌唱指導					後期終了音楽ライブで歌唱する楽曲の歌唱指導。					
13	MCトーク指導					後期終了音楽ライブでのフリートーク指導。					
14	台本・セットリストの作成					指導を加えながら台本の作成を行う。					
15	音楽ライブに向けてのリハーサル					リハーサル時に最終チェックを行う。					
16	後期終了音楽ライブ実施					実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。					
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
最終審査40%、本番ライブ30%、企画書・台本20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						将来、音楽活動を行う上で重要な知識、技術、経験になります。 ライブを楽しむことは大切ですが、それ以上にライブのノウハウをしっかりと学んで下さい。					
実務経験教員の経歴		音楽業界・マーケティング部門 経歴7年 指導経歴10年									

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	アニソンライブ実習			
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音楽ライブ活動をビジネスとしてとらえ、より実践的な企画・運営・出演が出来る人材育成を行う。 2. 価値あるライブ活動が行い、セルフプロモーション能力を高める。 3. 実践的に模擬ライブを繰り返し行う。						
学習目標 (到達目標)		動員目標を明確にし（60名以上）、目標達成できる広報計画を実施し、観客の満足度を上げる演出力を育成する。なお、観客の満足度はアンケートにて評価する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布資料および歌詞ブック						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1・2	ライブ企画				30分の音楽ライブに関する企画・立案方法を講義する。 ※ 次回までにA4レポート1枚で提出。			
3・4	ライブ企画 修正				提出されたレポートから良し悪しを抽出する。 ※ 次回までに完成した企画書を提出。			
5・6	企画から台本へ				提出された企画書を台本へ落とし込む。			
7・8	リハーサルステージ				台本をもとに、個々の30分音楽ステージを実施する。			
9・10	リハーサルステージ 修正				前回ステージでの改善点を修正し、問題があれば、新たに指摘する（よりクオリティーを向上する）。			
11・12	広報・動員について				音楽ライブの広報展開および動員計画について講義を行う。			
13・14	広報・動員コンテンツの作成				フライヤー、ポスター、Web広報のデザイン、情報、公開時期などを講義、ラフ作成を行う。			
15・16	前期終了音楽ライブのリハーサル				内容的クオリティーを高めるために進行段取りを確認し、本番で問題がないように確認する。			
17・18	前期終了音楽ライブ 本番				実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。			
19・20	卒業音楽ライブの企画立案				テーマ・コンセプト・目的・内容・ターゲットの設定と企画書作成の実習			
21・22	広報・動員計画と実施内容				卒業ライブへの広報および動員計画の作成実習			
23・24	技術打合せ				音響・照明との打合せ。それぞれの関係性を講義。			
25・26	卒業音楽ライブ 実施準備				ライブハウスの押さえる（日時確定）、演出や衣装、小道具を揃える。ステージングの練習など			
27・28	リハーサルステージ I				卒業ライブのリハーサルを繰り返し、問題があれば修正、クオリティーを高める。			
29・30	リハーサルステージ II				卒業ライブのリハーサルを繰り返し、問題があれば修正、クオリティーを高める。			
31・32	後期終了音楽ライブ実施				実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
前期ライブ25%、卒業ライブ35%、企画書20%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					実習授業であり、教わることより自身で考えて行動することが重要である。また、外部（ライブハウス・音響・照明など）との連携が発生するために、コミュニケーション能力が問われる。			
実務経験教員の経歴		音楽業界・マーケティング部門 経歴7年 指導経歴10年						

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	i-MEDIAゼミ		
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無	×	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のみに留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。					
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1・2	スペシャルゲスト講師①				予定講師		
3・4	スペシャルゲスト講師②				声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い		
5・6	スペシャルゲスト講師③				芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユー		
7・8	スペシャルゲスト講師④				チューバーなど		
9・10	スペシャルゲスト講師⑤						
11・12	スペシャルゲスト講師⑥						
13・14	スペシャルゲスト講師⑦						
15・16	スペシャルゲスト講師⑧						
17・18	スペシャルゲスト講師⑨						
19・20	スペシャルゲスト講師⑩						
21・22	スペシャルゲスト講師⑪						
23・24	スペシャルゲスト講師⑫						
25・26	スペシャルゲスト講師⑬						
27・28	スペシャルゲスト講師⑭						
29・30	スペシャルゲスト講師⑮						
31・32	スペシャルゲスト講師⑯						
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
授業態度と出席率で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴							

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		i-MEDIAゼミ			
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×		
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のみに留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員が一緒に受講する。							
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の事前資料あり							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1・2	スペシャルゲスト講師①					予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユーチューバーなど			
3・4	スペシャルゲスト講師②								
5・6	スペシャルゲスト講師③								
7・8	スペシャルゲスト講師④								
9・10	スペシャルゲスト講師⑤								
11・12	スペシャルゲスト講師⑥								
13・14	スペシャルゲスト講師⑦								
15・16	スペシャルゲスト講師⑧								
17・18	スペシャルゲスト講師⑨								
19・20	スペシャルゲスト講師⑩								
21・22	スペシャルゲスト講師⑪								
23・24	スペシャルゲスト講師⑫								
25・26	スペシャルゲスト講師⑬								
27・28	スペシャルゲスト講師⑭								
29・30	スペシャルゲスト講師⑮								
31・32	スペシャルゲスト講師⑯								
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
授業態度と出席で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。			
実務経験教員の経歴									

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		ビジネス著作権					
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×				
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		—		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。									
学習目標 (到達目標)		1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	著作権とは何か					イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的					
2	著作権で保護されるもの					著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19					
3	著作権は誰が持つ					著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29					
4	著作権の内容 1					著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科 書P31～P41					
5	著作権の内容 2					財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二 次的著作権 教科書P43～P59					
6	著作権は誰が持ついつまで保護される					著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69					
7	他人の著作物は勝手に使えない					著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77					
8	勝手に使える場合がある					権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演・演奏・引用 転載 教科書P83～P101					
9	著作物を伝達する者を保護する制度					著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放送事業者）・隣接権保 護期間 教科書P117～P129					
10	勝手に使うとどうなるか					著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145					
11	著作権に関する関連制度					知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155					
12	産業財産権とは					特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布					
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは					問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説					
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外					問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説					
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺					問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説					
16	模擬試験（過去問題より重要部分を出題）					答え合わせおよび解説					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。							出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格 を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識と なるので、しっかりと理解に努めること。				
実務経験教員の経歴		ビジネス著作権指導歴16年以上 MBAホルダー									

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名	実践行動学			
担当教員		若狭 利之			実務授業の有無		○	
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1	開講時期	前期
必修・選択		必修		単位数		－	単位時間数	15時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1．前期1回、後期2回実施 2．人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3．Part 1 ～Part 3 を毎回グループに分かれて実施						
学習目標 （到達目標）		将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1	Part 1 マジックドア 1				夢と目標 P 1 ～P 7			
2	Part 1 マジックドア 2				誤った思い込みと言い訳 P 8 ～P 1 3			
3	Part 1 マジックドア 3				行動のよりどころと心構え P 1 4 ～P 2 2			
4	Part 1 マジックドア 4				まず第 1 歩を P 2 3 ～P 3 2			
5	Part 1 マジックドア 5				目標設定しよう P 3 3 ～P38			
6	Part 2 マジックドア 1				プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P 1 ～P4			
7	Part 2 マジックドア 2				考え方を変えれば行動が変わる P 5 ～P 1 1			
8	Part 2 マジックドア 3				あなたの問題は、あなたが解決できる P 1 2 ～P 1 9			
9	Part 2 マジックドア 4				あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P 2 0 ～P 2 7			
10	Part 2 マジックドア 5				目標が才能・可能性を開花させる P 2 8 ～P 3 2			
11	Part 3 マジックドア 1				入学から今日までの成長を実感しよう P 1 ～P 4			
12	Part 3 マジックドア 2				働く自分をイメージしてみよう P 5 ～P 1 0			
13	Part 3 マジックドア 3				自分が最大限に生きる働き方とは P 1 1 ～P 1 5			
14	Part 3 マジックドア 4				将来を描いてみよう P 1 6 ～P 2 0			
15	Part 3 マジックドア 5				夢実現への第一歩を踏み出そう P 2 1 ～P24			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかありません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。			
実務経験教員の経歴		実践行動学ファシリテーター資格有						

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		専攻実習					
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		○				
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		1		開講時期		前期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		182時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 1年生にとっては初めての歌唱ライブを実施 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施									
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1~8	企画立案					テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成					
9~16	企画書作成					立案での決定事項をもとに企画書作成					
17~24	ステージ構成および内容					演出的なアイデアの出し合い					
25~32	セットリスト作成					楽曲リスト作成（内容への落とし込み）					
33~40	セットリスト作成（直し）					楽曲リスト作成（内容への落とし込み）					
41~48	歌唱練習					衣装作り・ステージング					
49~56	歌唱練習					</					

対象学科		声優アーティスト・アニソン科		科目名		専攻実習			
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		○		
対象コース		声優アーティストコース アニソンシンガー・ヴォーカリストコース アイドルデビューコース		対象学年		2		開講時期	前期
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 2年生にとっては上級生として自らの主体性で実施する歌唱ライブ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)		前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布							
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考				
1~8	企画立案				テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成				
9~16	企画書作成				立案での決定事項をもとに企画書作成				
17~24	ステージ構成および内容				演出的なアイデアの出し合い				
25~32	セットリスト作成				楽曲リスト作成（内容への落とし込み）				
33~40	セットリスト作成（直し）				楽曲リスト作成（内容への落とし込み）				
41~48	歌唱練習				衣装作り・ステージング				
49~56	歌唱練習								
57~64	歌唱練習								
65~72	歌唱練習								
73~80	歌唱練習								
81~88	歌唱練習								
89~96	歌唱練習								
97~104	歌唱練習								
105~112	ステージごとの稽古				演出および入りハケの練習				
113~128	ステージごとの稽古				演出および入りハケの練習				
129~136	通し稽古				衣装あり・音響・照明あり				
137~144	通し稽古				衣装あり・音響・照明あり				
145~150	通し稽古				衣装あり・音響・照明あり				
151~153	リハーサル撮影				本番さながらのステージを撮影し、映像でチェック				
153~155	リハーサル撮影				本番さながらのステージを撮影し、映像でチェック				
156~160	歌唱・ステージ演出 直し								
161~165	歌唱・ステージ演出 直し								
166~175	ゲネラルプローベ								
176~179	本番				配信ライブ				
180~182	本番時の映像を見て振り返り								
評価方法・成績評価基準					履修上の注意				
ライブ評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%					配信での本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴		音楽業界・マーケティング部門 経歴7年 指導経歴10年							

科目名	発声				
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期 前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. マイク通りの良い発声・滑舌を身につける。			
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成テキスト			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
6	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
7	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
8	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
9	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
10	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
11	テスト			滑舌課題確認テスト	
12	外郎売			暗唱	
13	外郎売			暗唱	
14	外郎売			暗唱	
15	外郎売			暗唱	
16	テスト			外郎売テスト	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				しっかりと声を前に出す意識を持たせる。	
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む			

科目名	演技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)	自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	身体トレーニング 1		イントロダクション・トレーニングの重要性		
2	身体トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動		
3	身体トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法		
4	身体トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング		
5	身体トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
6	身体トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
7	身体トレーニング 7		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
8	身体トレーニング 8		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
9	身体トレーニング 9		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
10	演技トレーニング 1		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
11	演技トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
12	演技トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
13	演技トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
14	演技トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
15	演技トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
16	テスト		テスト（身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能 力）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成 するつもりで臨んでほしい。日常のコンディショニングと常時 最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意 思を自覚すること。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動10年以上。				

科目名	歌唱				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	声楽のためのストレッチと呼吸 テキスト解説		歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声楽のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音		歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト		コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ		1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	演奏				
担当教員	富田 一輝		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 各希望楽器を用いたアンサンブル授業 2. 各パートごとの練習、完成後にバンド演奏 3. バンドステージとして発表				
学習目標 (到達目標)	初心者でも楽器が演奏できるようにある。経験者でもより高度なテクニックを身に付ける。 最終的にはバンド形態で1曲以上、演奏が出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	楽譜などプリント対応				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	楽器の特性などを説明		ギター・ベース・ドラムス・キーボード		
2	パート分け		各楽器および経験の有無に分かれて練習を開始		
3	まず音を出してみる		経験者は初心者をサポートしながら楽器を演奏してみる		
4	課題曲① 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
5					
6					
7					
8	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
9					
10	課題曲① 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
11	課題曲② 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
12					
13					
14	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
15					
16	課題曲② 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題①発表30%、課題②発表30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			楽器は各自、ご用意ください。		
実務経験教員の経歴		作曲家：2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数			

科目名	声優				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 日々行える声優トレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やブレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	映像				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 撮影・編集の基本的知識 3. スマホで撮影・編集・作品制作				
学習目標 (到達目標)	スマホで簡単に動画制作が出来ること				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	カメラ・編集機材の説明				
2	カメラ・編集機材の説明		使用方法		
3	撮影		撮影の基本的知識		
4	撮影		カメラワークについて		
5	撮影		サイズと照明効果		
6	撮影		10カット撮影してみよう		
7	編集		ソフトの選び方		
8	編集		カット編集の基本的知識（静止画）		
9	編集		カット編集の基本的知識（動画）		
10	編集		撮影した動画を自分で繋いでみる		
11	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
12	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
13	作品制作				
14	作品制作				
15	1分間動画 作品発表 評論		スクリーンにて作品投影		
16	1分間動画 作品発表 評論		スクリーンにて作品投影		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			最終的には自身のスマホを使って自由に動画制作が出来ること		
実務経験教員の経歴	新潟の映像制作プロダクションにて10年勤務				

科目名		照明			
担当教員		新潟照明技研株式会社 五味澤 和宏		実務授業の有無	○
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期 前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数 16
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。			
学習目標 (到達目標)		安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	照明基礎1 機材について			舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方	
2	照明基礎2 照明卓操作と色の変化			機材の名称、使い方と安全な作業について	
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類			各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。	
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識			図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。	
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り			吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。	
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編			オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。	
7	照明基礎7 電気基礎 応用編			灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス（当たり合わせ）	
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方			図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる	
9	照明基礎9 前期復習（テスト）			前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー	
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい			休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し	
11	照明基礎11 演目とイメージ			演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正	
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン			音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作	
13	照明基礎13 芝居などの効果演出			演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作	
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材			演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法	
15	照明基礎15 プランニングまとめ			照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング	
16	照明基礎16 基礎のまとめ			照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。	
実務経験教員の経歴		新潟照明技研株式会社に所属する現役の照明家			

科目名		音響									
担当教員		株式会社サウンドエイト長谷川 辰也		実務授業の有無		○					
対象学科		全学科		対象学年		全学年		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する									
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。									
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1		音響基礎実習Ⅰ					映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ				
2		音響基礎実習Ⅱ					音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ				
3		音響基礎実習Ⅲ					録音機材の準備方法、撤収方法				
4		音響基礎実習Ⅳ					ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ				
5		音響基礎実習Ⅴ					スタジオ録音実習				
6		音響基礎実習Ⅵ					アフレコ録音実習				
7		音響基礎実習Ⅶ					アフレコ録音実習				
8		音響基礎実習Ⅷ					効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）				
9		音響基礎実習Ⅸ					効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）				
10		音響基礎実習Ⅹ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
11		音響基礎実習Ⅺ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
12		音響基礎実習Ⅻ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
13		音響仕上げ実習Ⅰ					ミックスダウンを行ってみる。				
14		音響仕上げ実習Ⅱ					ミックスダウンを行ってみる。				
15		音響効果研究Ⅰ					アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する				
16		音響効果研究Ⅱ					アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する				
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴		新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。									

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		制作				
担当教員		大崎 信行		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. イベントが作られる仕組みを学ぶ 2. イベント運営を学ぶ 3. 自主企画イベントを行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	イベント企画導入Ⅰ			イベントを組む上での必要な考え方		
2	イベント企画導入Ⅱ			イベントに必要な人材や役割を理解する		
3	イベント企画Ⅰ			公演時に必要な役割と準備		
4	イベント企画Ⅱ			企画書作成に関する基礎知識		
5	イベント企画Ⅲ			演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	イベント企画Ⅳ			いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	イベント企画Ⅴ			様々な意見やジャンルからアイデアを集めてみる		
8	イベント企画Ⅵ			アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	イベント企画Ⅶ			仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう（提出）		
10	イベント企画Ⅷ			イベント論 1 公演目的と意義		
11	イベント企画Ⅸ			イベント論 2 地域交流（イベント）		
12	イベント企画Ⅹ			イベント論 3 多種多様なイベント形態		
13	イベント企画Ⅺ			出演者やスタッフの動きを考える		
14	イベント企画Ⅻ			出演者のタイムスケジュールについて		
15	イベント企画ⅩⅢ			スタッフ進行表について		
16	総括			実演目的の企画を立ててみる。（演目時間自由）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%				16回すべての授業に出席し、イベントの企画を行う事		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年				

科目名	演出				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像表現に必要な演出手法を習得する。 2. 学生制作作品をチェックしながら具体的改善的を指導する。				
学習目標 (到達目標)	自ら演出を考え、役者に芝居に応じた演出を付けられる				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演出基礎Ⅰ		筋書と台詞について		
2	演出基礎Ⅱ		立ち位置、見栄え、動き		
3	演出基礎Ⅲ		効果的な音響・照明効果		
4	演出論Ⅰ		著名な演出家		
5	演出論Ⅱ		歴史的・社会的・世界観表現		
6	演出論Ⅲ		創作演出、メソッド効果など		
7	映像・演出とは何か		画面の映り方による画面効果の違い		
8	映像・演出とは何か		視線の的確な誘導を考える！		
9	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する①		
10	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する②		
11	アクションについて		なめらかに見せる演出方法		
12	アクションについて		フレームインアウトなど		
13	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法①		
14	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法②		
15	学生作品（5分）制作		各自、演出方法を参考に動画を制作してみる。		
16	学生作品（5分）の編集チェック		各自、作品を持参してプロジェクター投影しながら編集の良し悪しの指導を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作品改善の評価70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			編集チェックの作品は自身の作品であること。 また、作品の提出は何本でも可能である。		
実務経験教員の経歴	演劇業界にて実績あり。当校専任講師				